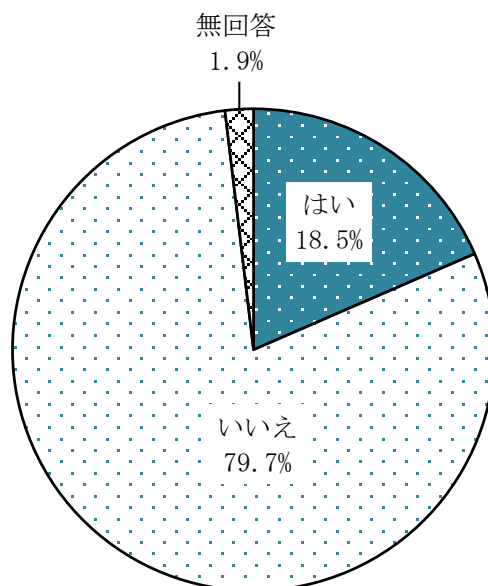


4. こども・子育て施策（ベビーファーストの推進）について

（1）子育て状況

問 あなたは今、0～18歳のお子さんの子育て中ですか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

2 割弱の市民が現在、子育て中

【全体結果】

現在、0～18歳のお子さんを子育て中の方は18.5%となっています。

【属性別結果】（図 4-1 参照）

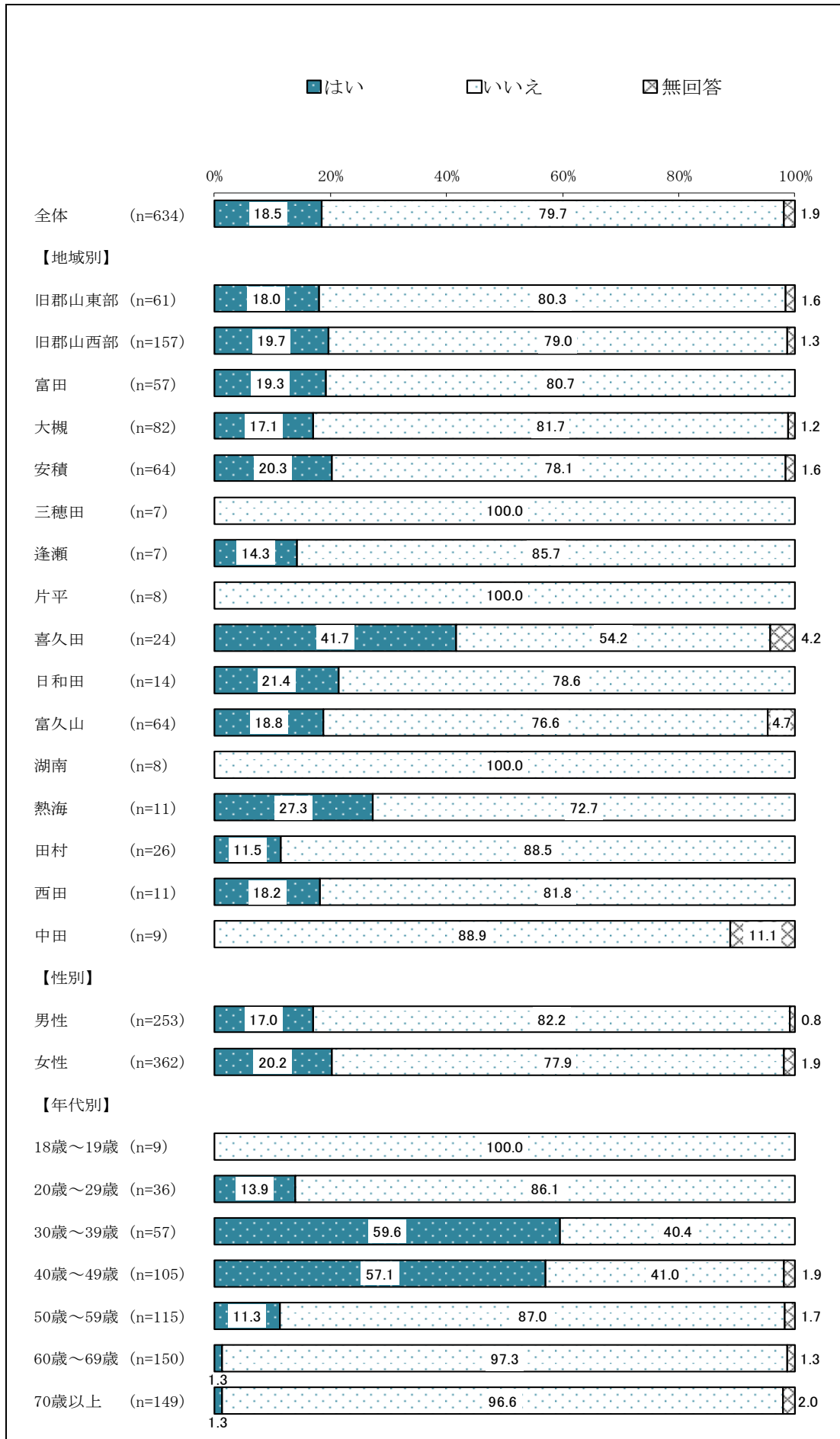
① 性別

現在、子育て中の方は、女性（20.2%）の方が男性（17.0%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

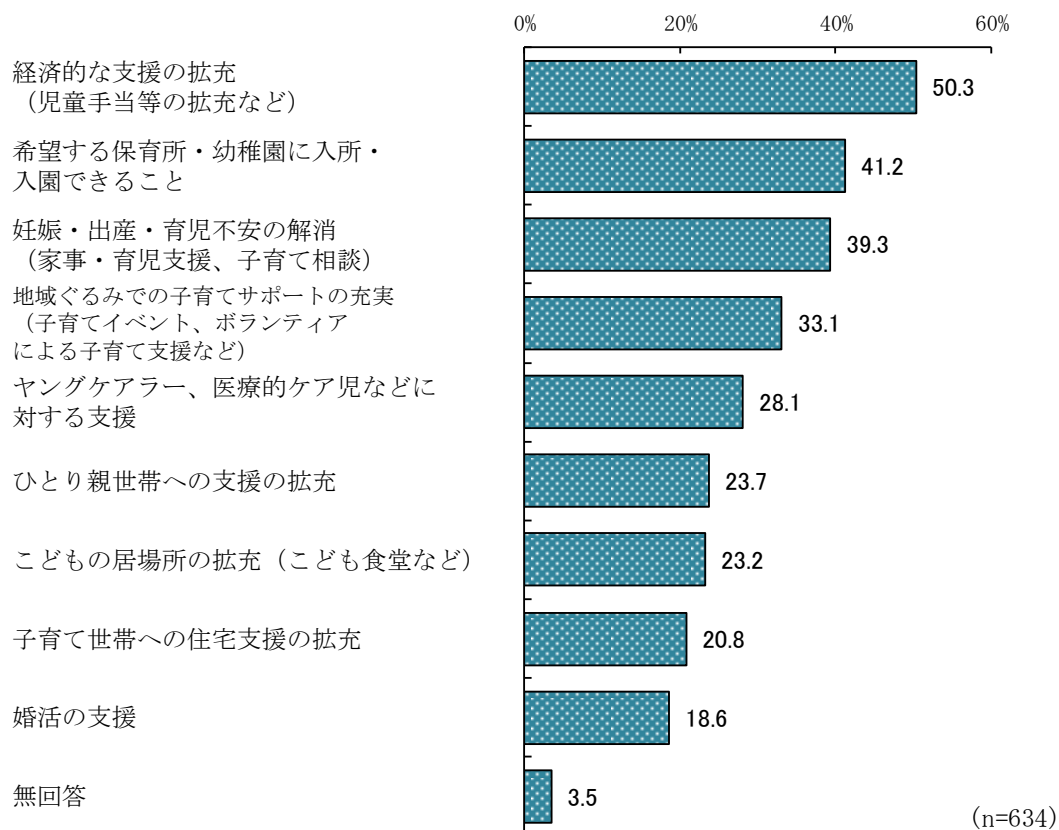
現在、子育て中の方は、30代で約6割と最も高くなっています。

図 4 - 1 子育て状況 (地域別/性別/年代別)



(2) 子育て支援について（複数回答）

問 子育て中の方もそうでない方にもお聞きします。子育て支援について、あなたは、どのようなことが重要とお考えですか？
あてはまる番号を3つ選び、○印をつけてください。



————— 約半数が「経済的な支援の拡充」を重要としている —————

【全体結果】

子育て支援について重要なこととして最も多かったのは「経済的な支援の拡充（児童手当等の拡充など）」（50.3%）となっています。次いで、「希望する保育所・幼稚園に入所・入園できること」（41.2%）、「妊娠・出産・育児不安の解消（家事・育児支援、子育て相談）」（39.3%）などとなっています。

【属性別結果】（図 4-2 参照）

① 性別

「経済的な支援の拡充」の割合は男性（54.9%）で半数以上を占め、特に高くなっています。

② 年代別

すべての年代において「経済的な支援の拡充」が最も高く、特に20代、30代で割合が高くなっています。

図4-2 子育て支援について～1/3～（地域別／性別／年代別）

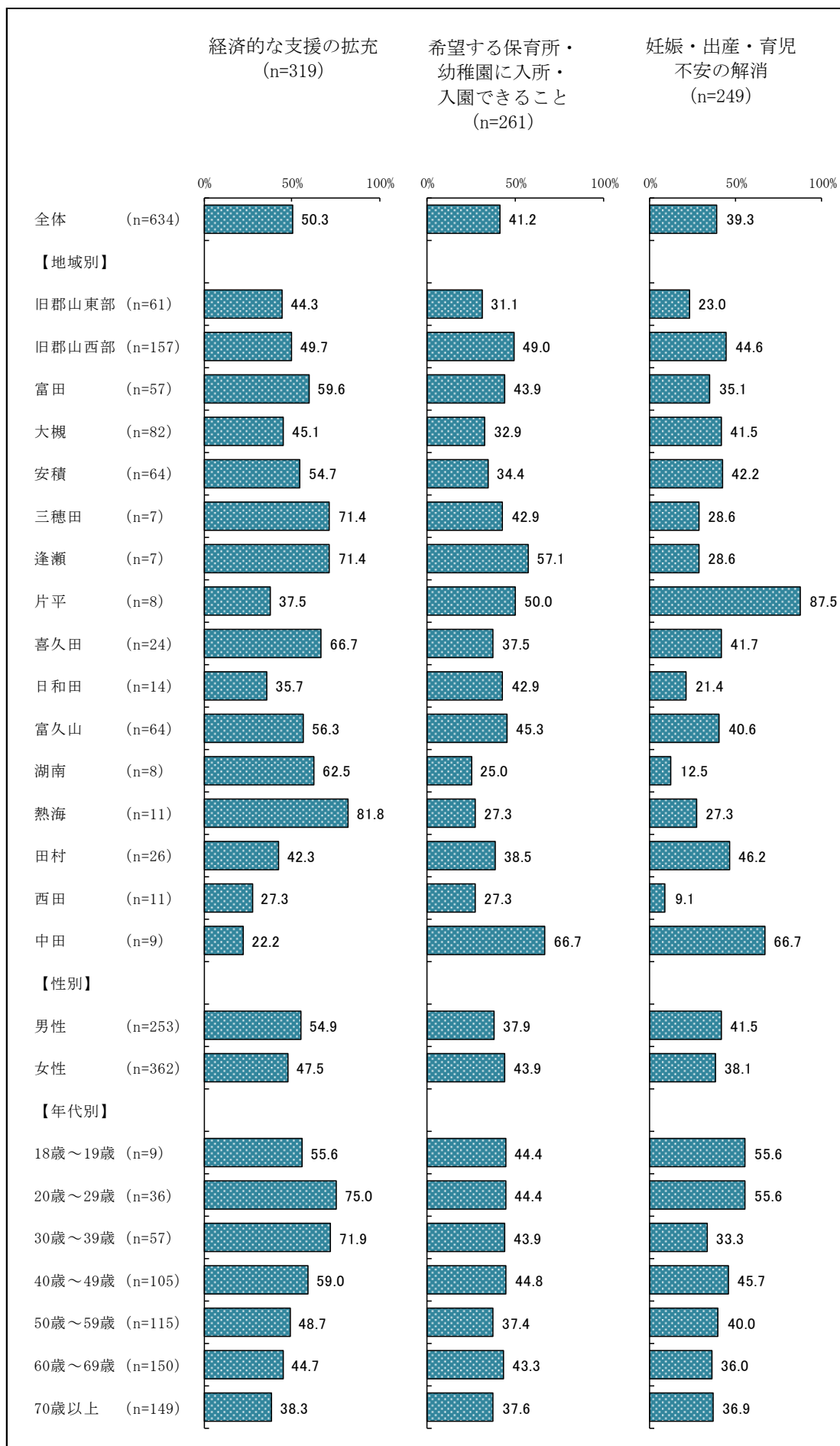


図4-2 子育て支援について～2/3～（地域別／性別／年代別）

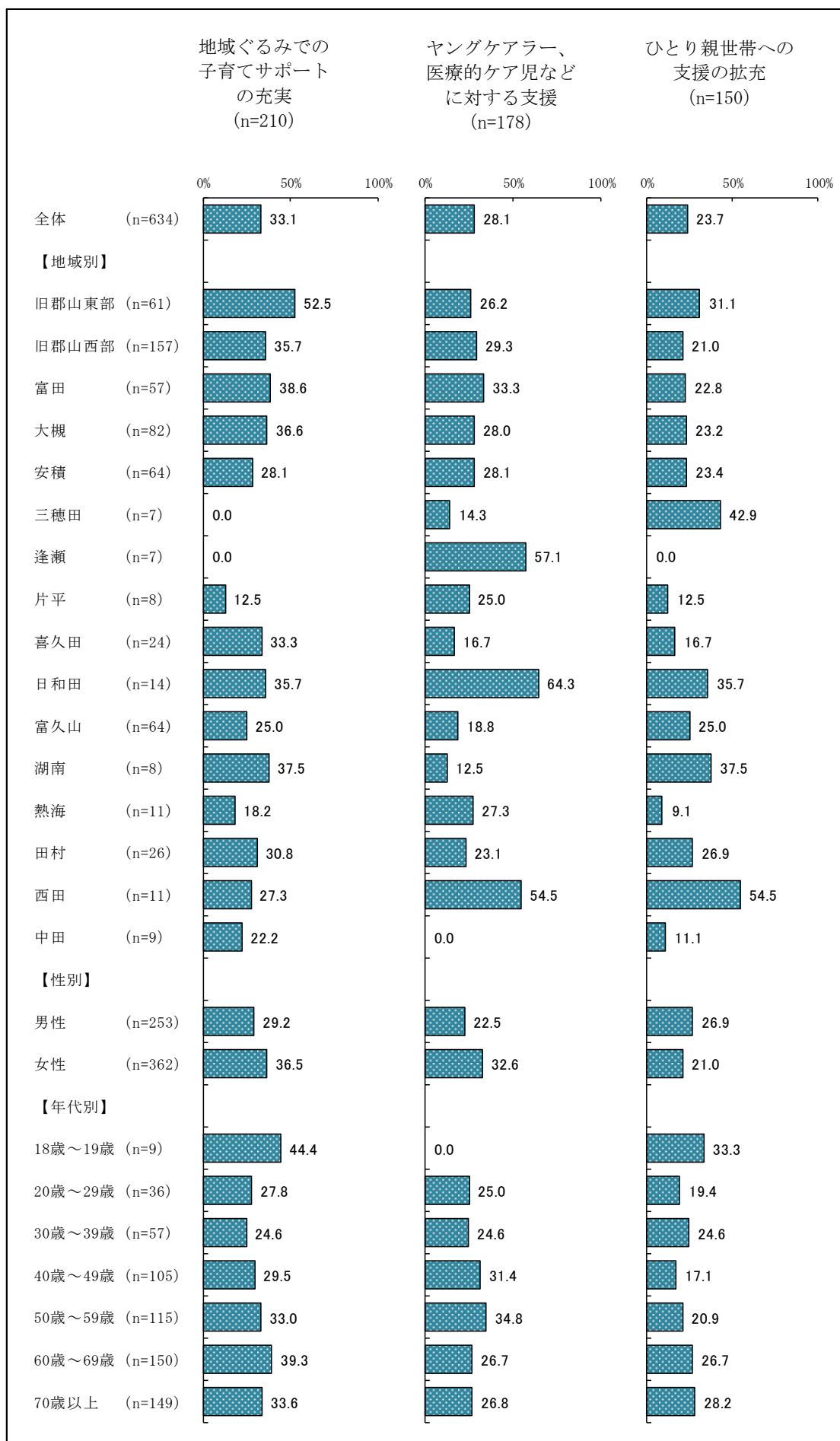
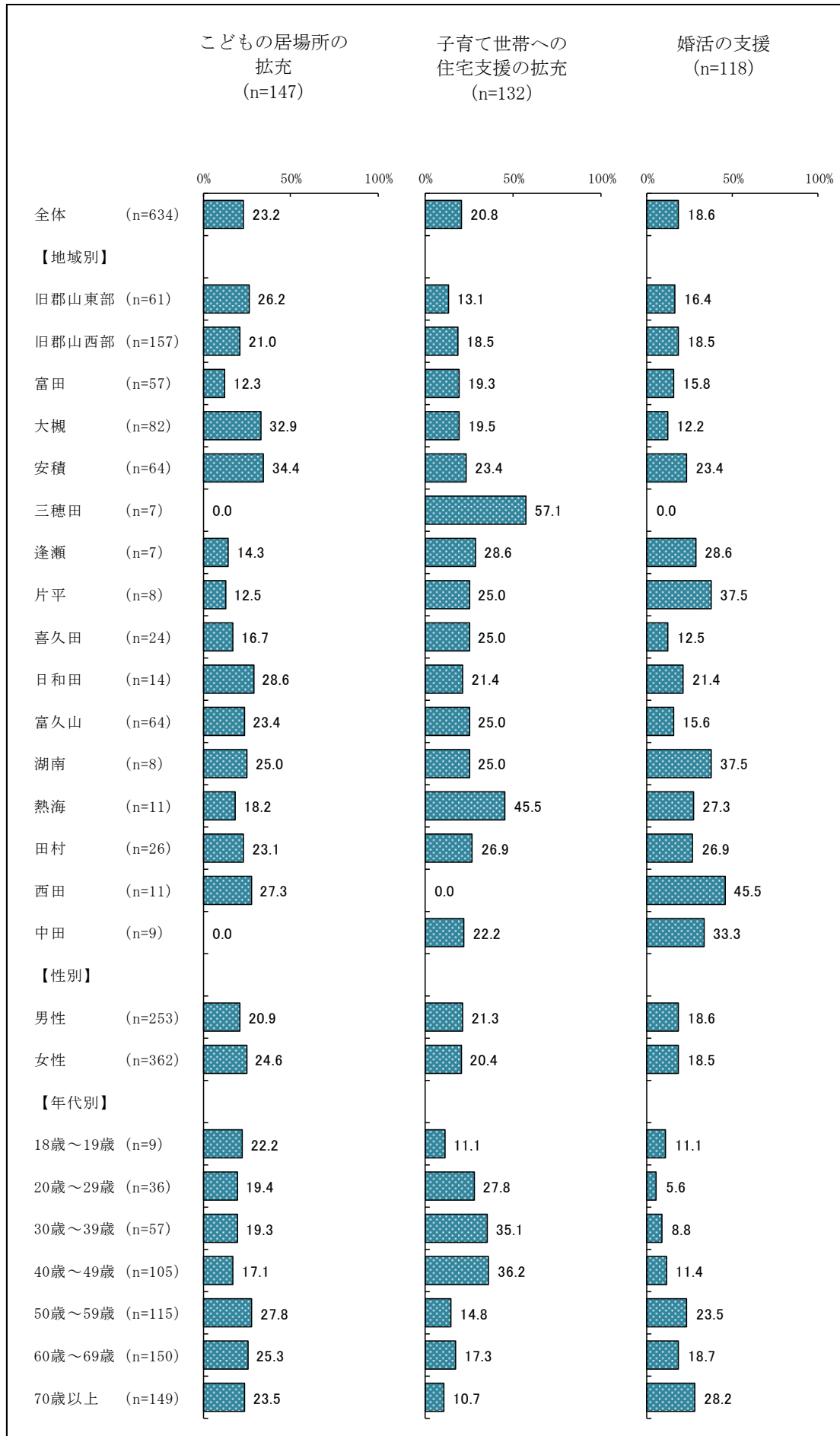
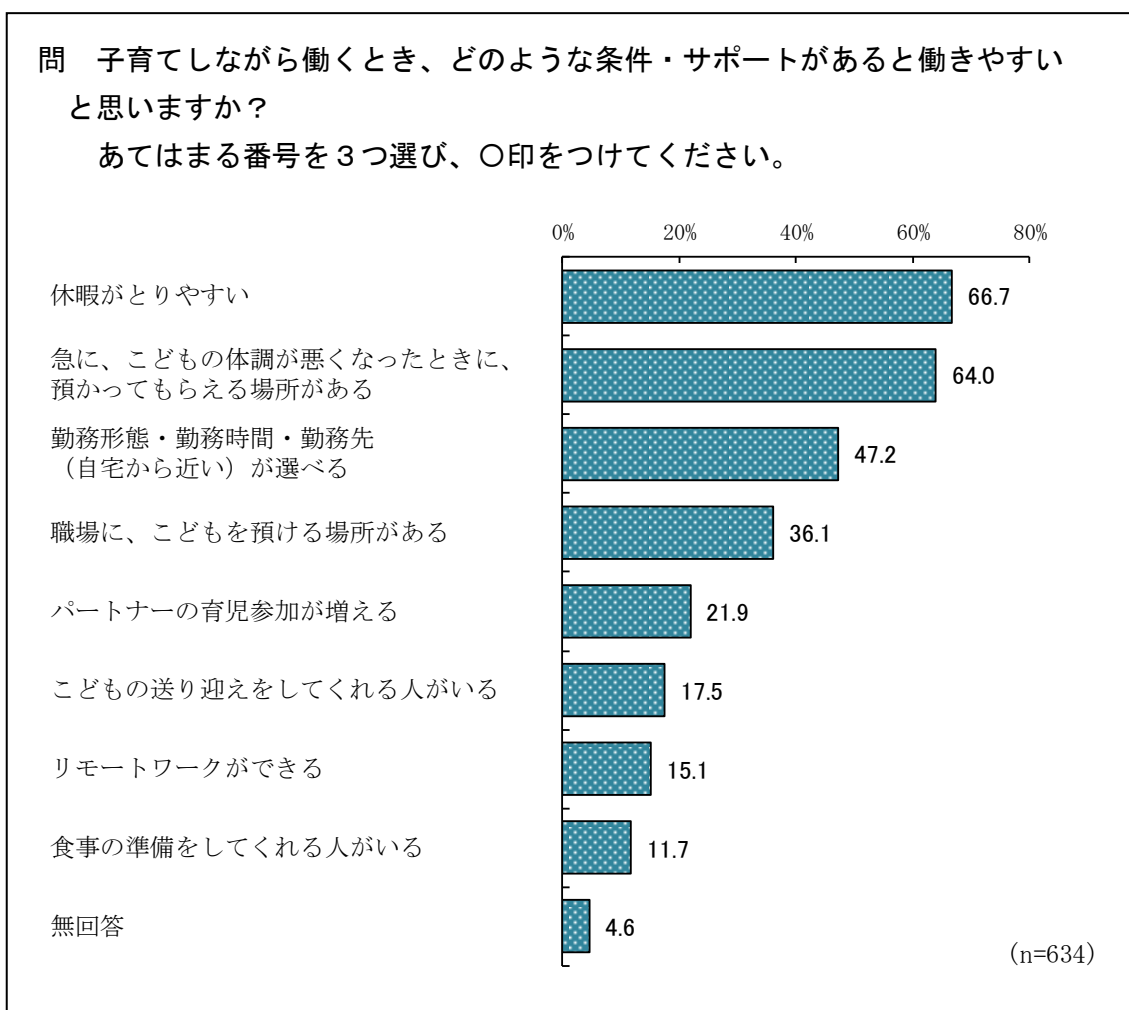


図4-2 子育て支援について～3/3～（地域別／性別／年代別）



(3) 働きやすい条件・サポート（複数回答）



——— 子育てしながらでも「休暇がとりやすい」と働きやすい ———

【全体結果】

子育てしながらでも働きやすい条件・サポートとして最も多かったのは「休暇がとりやすい」(66.7%) となっています。次いで、「急に、こどもの体調が悪くなったときに、預かってもらえる場所がある」(64.0%)、「勤務形態・勤務時間・勤務先（自宅から近い）が選べる」(47.2%)、「職場に、こどもを預ける場所がある」(36.1%) などとなっています。

【属性別結果】(図 4-3 参照)

① 性別

「急に、こどもの体調が悪くなったときに、預かってもらえる」の割合は女性(67.7%)の方が男性(60.1%)よりも割合が高くなっています。

② 年代別

20～40代で「休暇がとりやすい」が7割以上と高くなっています。

図4-3 働きやすい条件・サポート～1/3～（地域別／性別／年代別）

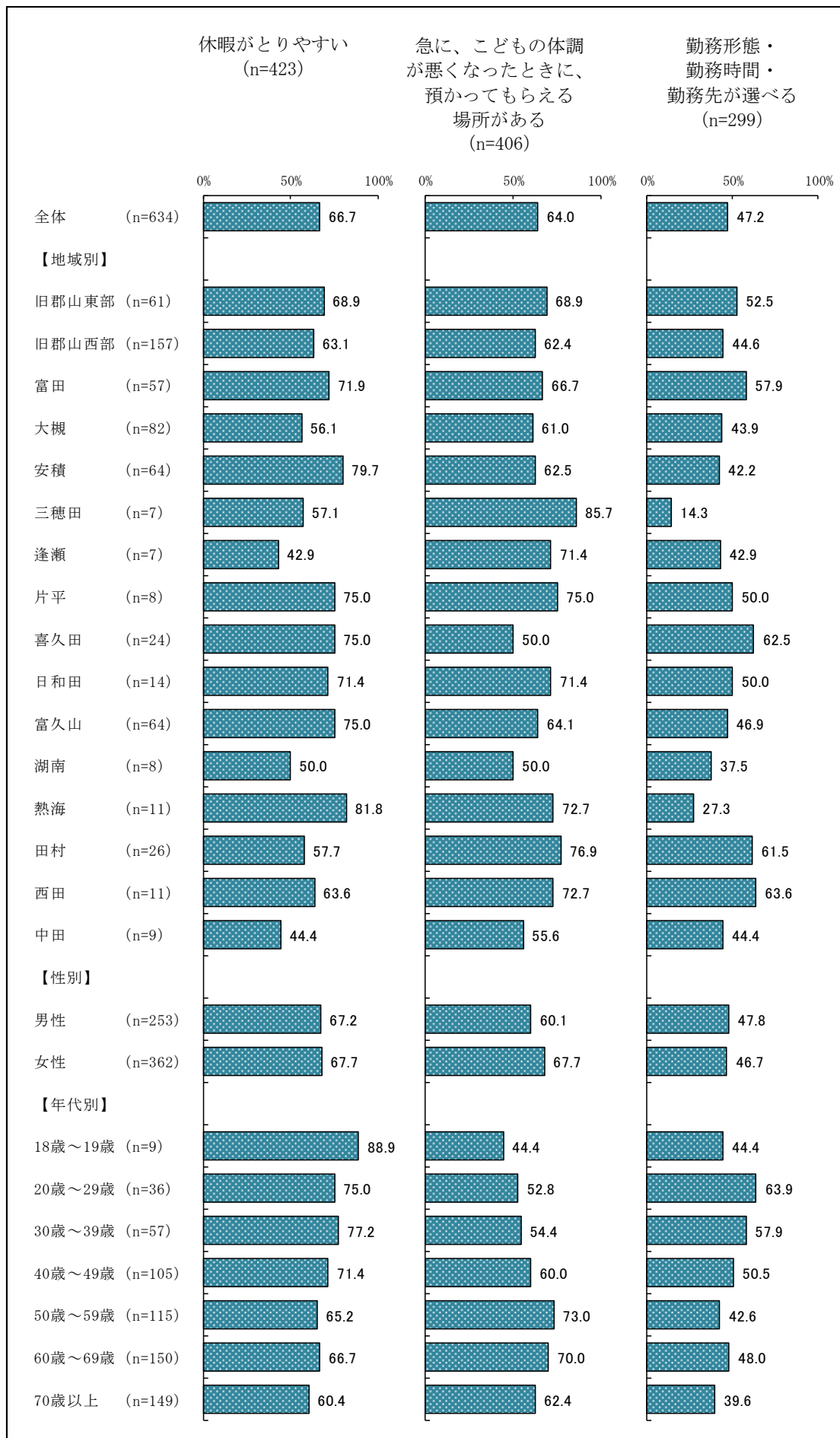


図4-3 働きやすい条件・サポート～2/3～（地域別／性別／年代別）

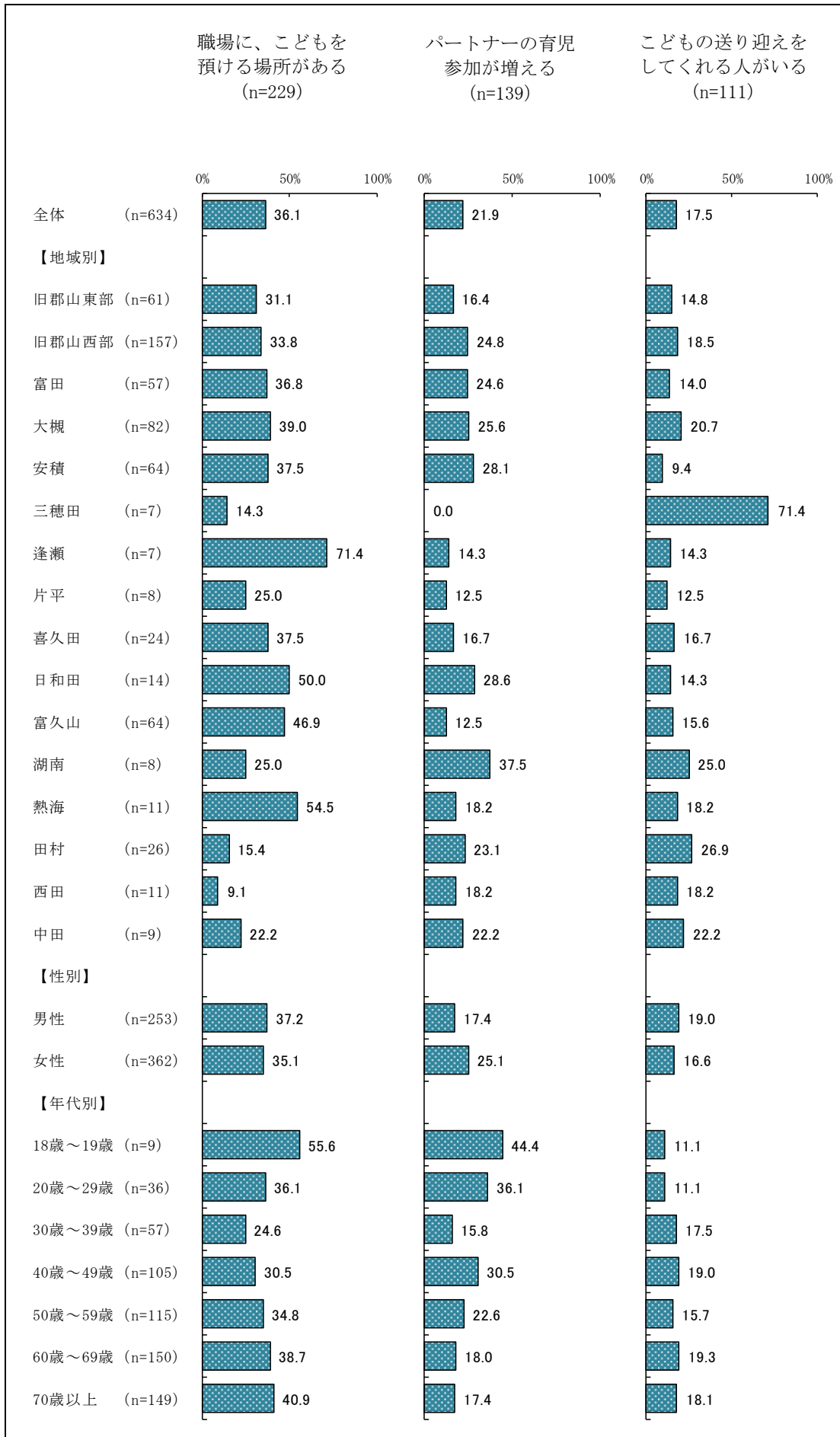
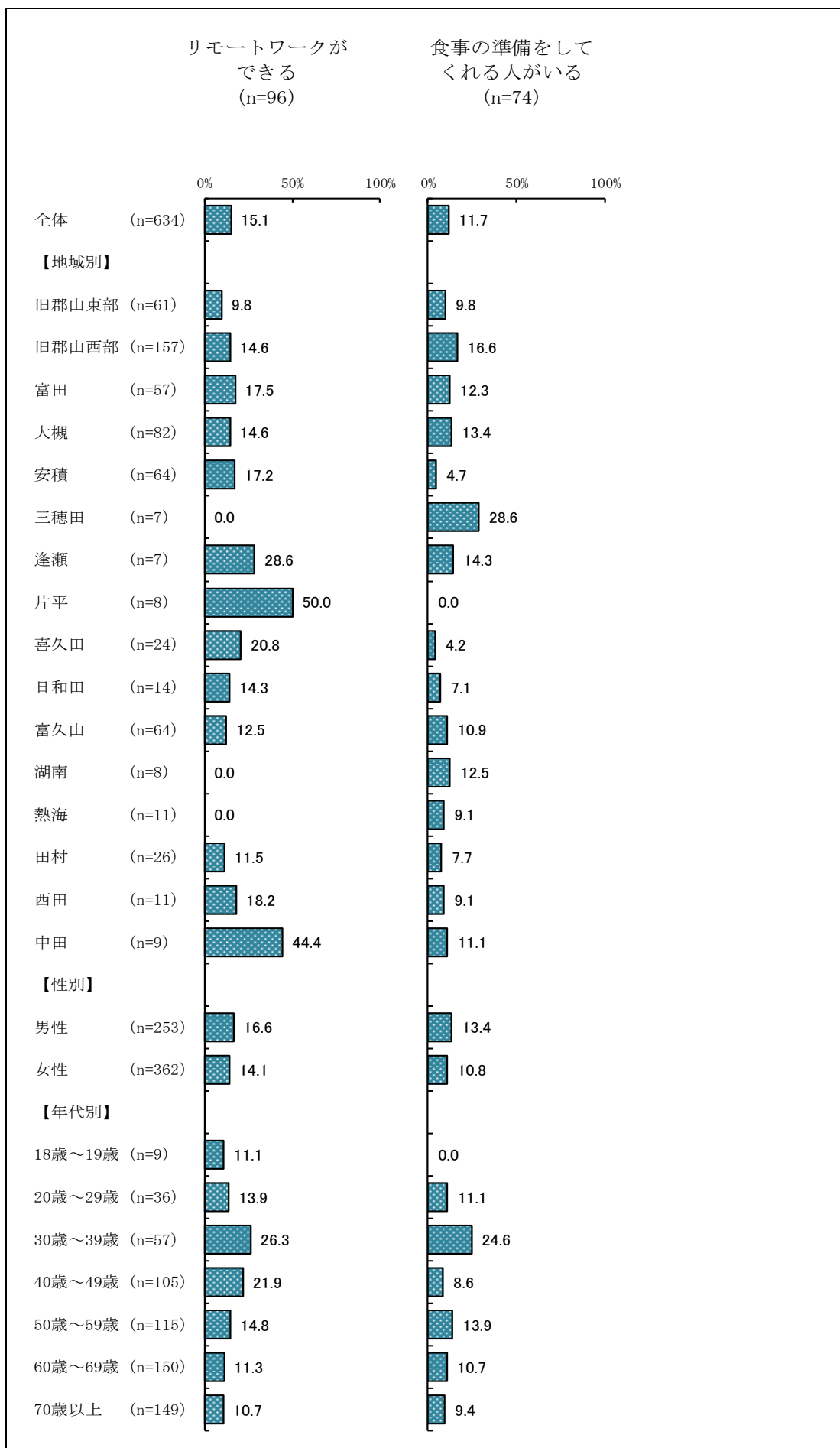
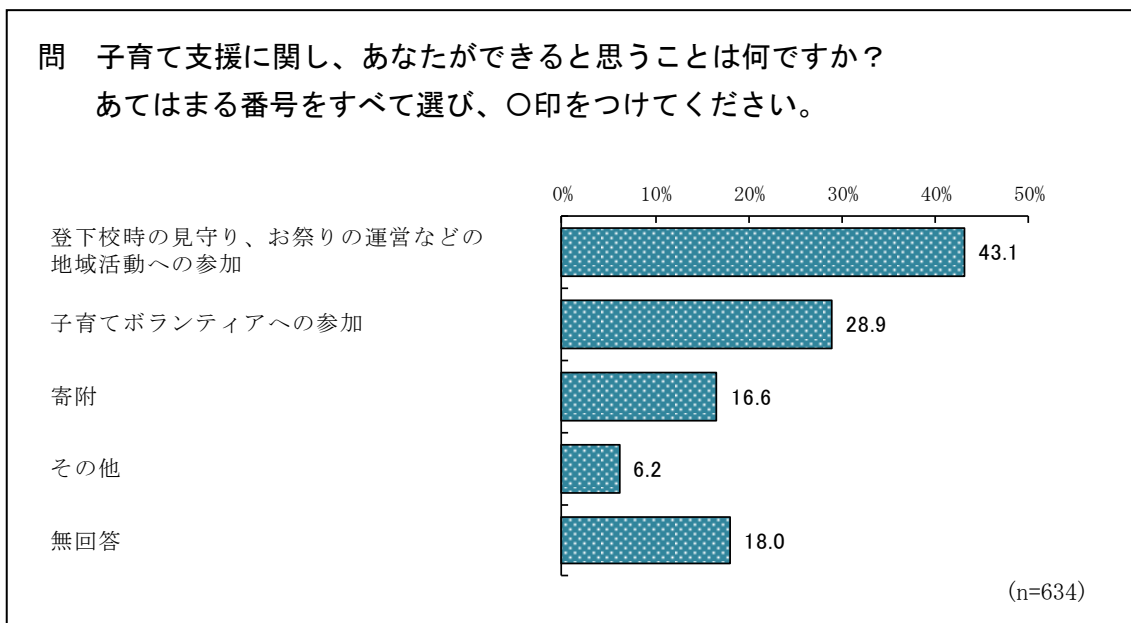


図4-3 働きやすい条件・サポート～3/3～（地域別／性別／年代別）



(4) 地域における子育て支援（複数回答）



— 「登下校時の見守り、お祭りの運営などの地域活動への参加」 はできると思う —

【全体結果】

子育て支援に関して、できると思うことは「登下校時の見守り、お祭りの運営などの地域活動への参加」（43.1%）が最も多く、「子育てボランティアへの参加」（28.9%）、「寄附」（16.6%）の順に続いています。

その他の回答としては、「子ども食堂などのお手伝い」、「社会教育等への参加」等があがっていました。

【属性別結果】（図 4-4 参照）

① 性別

「登下校時の見守り、お祭りの運営などの地域活動への参加」の割合は男性（51.0%）の方が女性（39.2%）を大きく上回っています。

② 年代別

60代では他の年代に比べ「登下校時の見守り、お祭りの運営などの地域活動への参加」の割合が約半数を占め、特に高くなっています。

図4-4 地域における子育て支援～1/2～（地域別／性別／年代別）

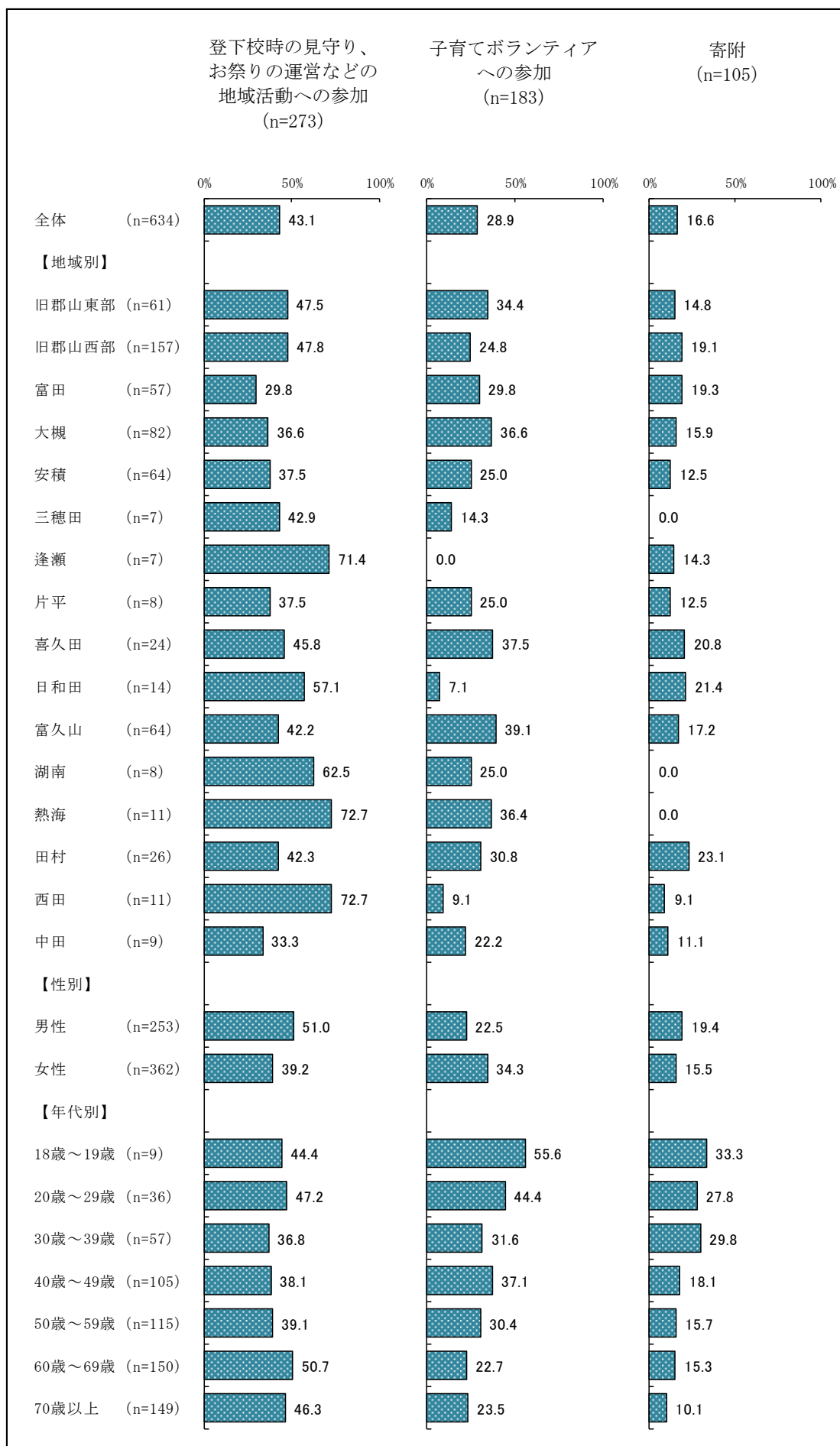
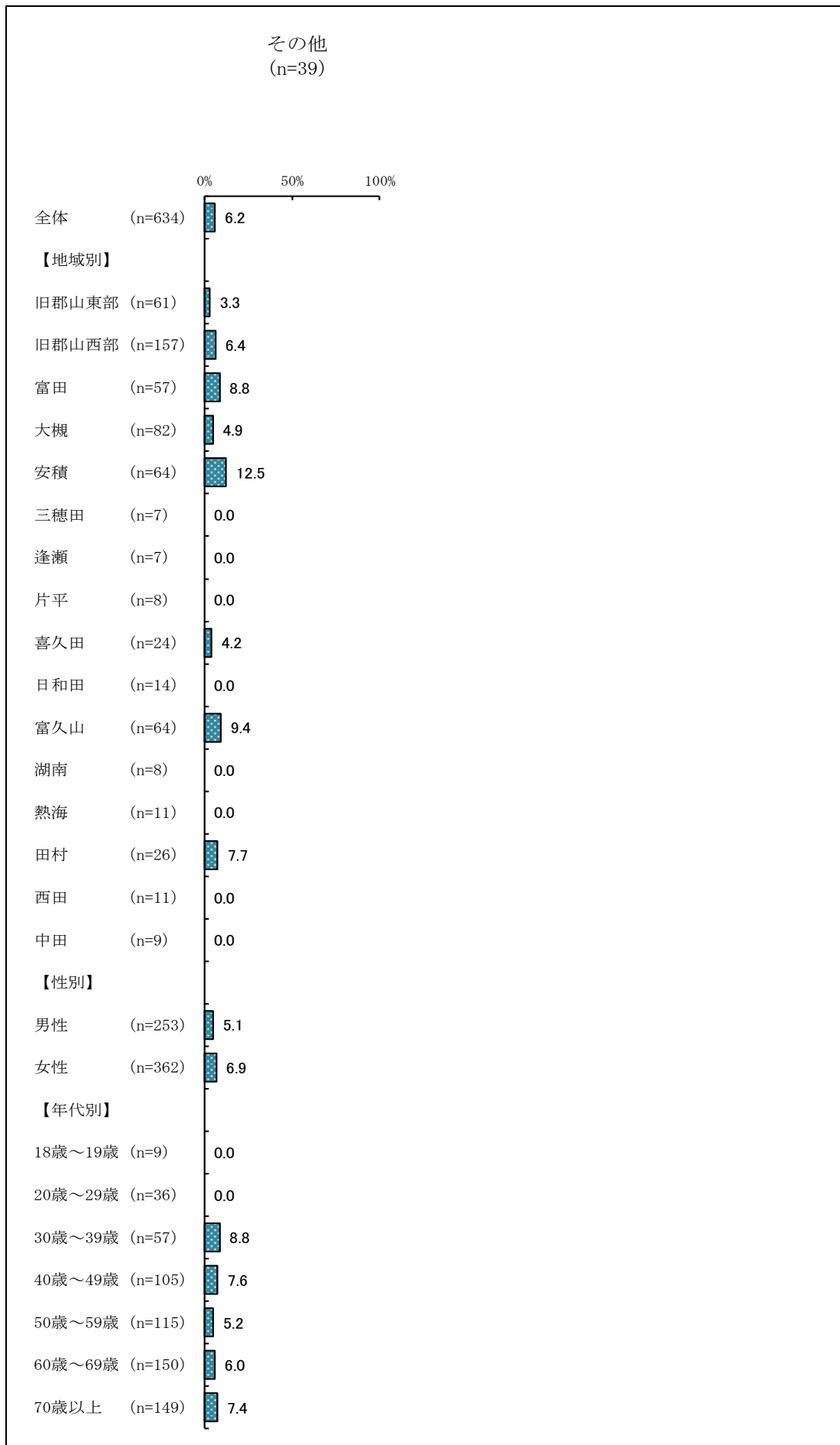


図4-4 地域における子育て支援～2/2～（地域別／性別／年代別）



(5) 子育て支援についての意見等（自由記載）

問 少子化の進行、児童虐待の増加、こどもの貧困など、こどもを取り巻く環境が変化しています。

子育て支援について、ご意見やご提案などがありましたらご自由にお書きください。（自由記載）

子育て支援についてたくさんのご意見が寄せられました。主な意見は以下のとおりとなります。

【経済的支援】

- ・ ひとり親世帯への経済補助。こども2人以上の世帯への経済補助。いつでも預けられる児童館の設立。学習塾などに通う時の補助金の支払体制。（女性・60代）
- ・ 出産にあたり、お祝い金の支給。こども達を救済できるような施設（食事もできるこどもの家）。（女性・50代）
- ・ 母子家庭や困窮世帯への家賃補助や、光熱費の減額（1割負担等）があれば良いと思います。（女性・30代）
- ・ 所得の少ないひとり親世帯への経済的な支援や、働ける場所の提供などに力を入れてほしい。（女性・60代）

【保育施設の充実】

- ・ 学童保育の充実が図られると良いと思う。夏休み等に昼食の支援等あれば親御さんも働きやすい。（女性・60代）
- ・ 現在学童に預けていますが、18時半までで延長ができないのが不便です。郡山市の人は、仕事をする人が少ないのでしょうか。民間も高すぎるので、民間利用者に補助がないのもつらいです。また、学童も先生に位置づけられているのも疑問でした。必ず親もしくは送迎者が送迎しないといけないのも疑問です。交通安全やこどもの安全確保の位置づけなのかもしれませんが、だったら延長を採用してほしいです。延長ができないために、仕事をする時間が削られ、給料も下がるという負の連鎖ができています。（男性・40代）
- ・ 病児保育の利用料を所得制限なしで無料にしてほしい。（女性・20代）
- ・ どの家庭でもワンオペになりがちな子育て。孤独にならない子育てのためにSNS（インスタ、FB等）などで子育てに助かる情報や取組みを積極的に発信し、屋外の公園の整備や屋内の遊具整備増加、安心してお買い物ができるように商業施設での一時お預かりサービス、保育施設の増設、それに伴う保育士の増加、拡大、給与の増加、子ども食堂の増設、各地域に食品ポストを開設し、常時食品寄付の受け入れを図る。塾に通えないこどものために各地域の公民館や集会場、コミュニティ施設で無料もしくは格安に通える塾の開設・増設。（女性・70代以上）
- ・ 0から2歳の保育料無償化してほしい。保育料が高すぎる。3人目出産したら手当て出る、など金銭的な支援は必要。じゃないと子育て世代は増えないと思う。（女性・30代）

【こどもの安全確保】

- ・ 助けを求めるこどもがいた場合、コンビニ等の店や会社に逃げ込めるのはとてもいいと思う。家や学校以外でこどもが話せる場所も「逃げ込める場所」として重要と考える。(女性・50代)
- ・ こどもが困った時に話しやすい環境を作る。学校が終わり家で長い時間親の帰りをひとりで待つことが無くなる様、こどもをあずかってくれる場所があれば良い。(女性・60代)

【児童虐待防止】

- ・ 児童虐待、こどもの貧困、ヤングケアラーなど、見逃さない体制が大事だと思います。こどもが安心してらせる街がだれが住んでも住みよい街だと思います。(女性・50代)
- ・ 児童虐待は、家庭内の問題が多いため、一時、こどもを預ける「施設」を完備してほしい。安心して、こどもが寝起きでき、学習できるように、食事もとれるように。(女性・70代以上)

【職場環境】

- ・ 父親の育児休暇の取得を、0～3歳までの間に好きなタイミングで取れると良い。(出産後だけではなく、3歳頃まで母親の負担は大きい)、公園等の充実。(女性・40代)
- ・ 企業にもっと育休取得の働きかけをして欲しい、それに対する補償や提案、事例などの開示等をして欲しい。保育料についても保育士さんへの人件費諸々あると思うが、0から2歳児までの保育料を市で補助していく事ができないのかと思う。(男性・40代)

【地域コミュニティ】

- ・ 昔はどこでも遊ぶことが出来ました。学校でも公園でも友達の家を行き来する事が出来たのが、今の親世代が自由に言ったり来たりできない環境になっているみたいですね。自分は孫を見ているのですが、今の子育ては大変だなと思います。環境を変えるのは一人一人の意識を変える事だと思います。普通の生活を教える場を作ってみてはいかがですか？子育ての先輩がリーダーになって遊ぶとか出来たら良いですね。(女性・60代)
- ・ 子ども食堂を推進し、補助していく。郡山市のどこに子ども食堂があるのか…？どれくらいあるのか…？全くわからない。＜広報、開示の強化＞ただし、こどもの貧困の問題については、子ども食堂程度では解決にはならない。やはり行政側からの支援は不可欠。限られた予算で大変であると思いますが、期待しています。(男性・20代)
- ・ 子ども食堂をもっと多く作り支援して行きたい。(女性・70代以上)
- ・ 児童の虐待について、市や相談センターでも、何かあると「相談できる人がいるか」など聞いてくれるけど、こどもに手をあげてしまったり、虐待かも?!と自分

で気付いていたとしても「役所」という固執したイメージが強く「言ったら何か大事になるのでは…」と思う親御さんも多いと思います。もっと身近で話しやすい人、例えば学校のママ友や役員さんなどで相談しあえる環境があると良いのでは…と思います。決して手をあげる気はなくても誰にも言えていない悩みやストレスで、つい手が出てしまい、後ろめたさから閉じこもってしまうお母さん方の話をよく耳にします。例えば幼・保育園・小学校・中学校などに親御さんの相談室的なものがあって、「虐待している」ではなく、遠まわしに「こどもがいうこときかないときどうしてる？」を話し合えたり、PMSの時どうしようもなくイライラしてしまうときどうやって過ごしてる？などみんなで話し合えてコミュニケーションを広げられるような場を設けると色々なアドバイスももらえていいのになと思ってます。こどもにばかり目を向けるのではなく、一番はお母さん達が閉じこもることなく広い視野でこどもと向き合える環境作りが大切ではないでしょうか。(女性・40代)

【教育費援助】

- ・ 給食の無料化、大学まで学費免除。(男性・70代以上)
- ・ 子育てにはお金がかかります。児童手当の他に小中高の入学の際にお祝金(5万円位)があつたらどんなに助かるでしょうか?!制服、靴、文房具等入学時にはまとまったお金が必要になりますので。(女性・60代)
- ・ 学校の制服や運動着、筆記用具などの助成。(その他・30代)

【その他】

- ・ 婚活支援、若い夫婦(初めて子育てをする方たち)のサポート。(女性・60代)
- ・ 第1子出産時(2013年)と第2子のときで(2017年)、郡山市のサポート体制が変わっており、その充実には驚きました。特に出産後に産院に泊まりケアをしてもらえるサービスは、活用したことこそなかったものの、いざとなったら頼れる場所があると思えるだけで心強いサポートでした。(実家も義実家も遠方であるため)子育て支援センターにもほぼ毎日通い、大変助かりました。(女性・40代)
- ・ 子育てで一人で抱え込んで悩まないようケアやカウンセラーの充実など。(女性・30代)